

JUDI 関東ブロック 海外キャラバン
韓国世界遺産：歴史に残された伝説の村
『安東市河回村「ハフェマウル」を訪ねる』

開催報告



2014年9月

都市環境デザイン会議 関東ブロック

JUDI 関東ブロック 海外キャラバン

歴史に残された伝説の村『安東市河回村「ハフェマウル」を訪ねる』

開催日時：2014年9月20日-21日

参加メンバー：JUDI 会員6名 一般2名 合計8名

案内人：厳祉堯 保存会会長 柳氏 (Ryu Han Chul)



スケジュール：9月20日：東大邱駅に集合、バスにて河回村へ移動。村内を散策後、世界遺産の伝統家屋が宿泊施設とに宿泊。9月21日：ハフェマウル村内を散策後、対岸の芙蓉台（ブヨンデ）訪問、文化財施設で現地保存会の会長からのお話を受ける。バスにて東大邱駅に向かい解散



JUDI 関東ブロック会員ジヨンさんの故郷、韓国の古い町並みを訪ねるツアーを企画しました。

安東市河回村は柳氏が600年余り代々暮らしてきた韓国の代表的な氏族村であり、瓦葺きの家や藁葺きの家が長い歴史の中で保存されてきた場所です。河回村は三面が洛東江に囲まれているため、水が回り流れるという意味で「河回」と名付けられたそうです。



この村は、戦乱から身を隠すように逃れてきた人たちが築いた学者が集った村が由来、柳一族を中心として多くの儒学者を輩出した村です。世界遺産に認定された現在でも127世帯、458棟の建物に村人が暮らしています。河回村の家々は村の中心のケヤキの木を中心に川に向かって配置されているため、家の正面の方向が一定ではなく村の家が西東南北を向いていて、また、大きな瓦葺の家を中心に周辺に藁葺きの家が円形を成して配置されているのが特徴です。瓦の家は上流階級、藁葺きは身分の低い家の名残です。この集落が歴史の中で開発されずに残ってきたという事、知識人が多く、偉人を輩出してきた事、現代に入っても国会議員や大手企業の社長等を輩出するという両班の村として、村の団結心の賜物なのでしょう。朝鮮時代の住宅様式と村の形態をそのまま残し現在も人々が生活する村です。両班文化と庶民文化が調和をもって保っています。時間が止まったようなしつらえの村の街路が印象的です。



古民家が宿泊施設として解放されている。左は正門横の昔の使用人の部屋、直火オンドル。右は、当時から客人用の離れ。いずれも現在では民泊施設として解放されている。





山間の村なのに、名物は鯖の塩焼き（沿岸地域からの移動で保存食として発酵させた鯖の塩焼きが美味であった。）右は、当地の名物料理である法事の際のご馳走を賞味



古くからの運動場、韓国歴史ドラマに出てくるような風景です



住宅は、男女の居室が別れており、姿を直接見ることのないように壁が設けられている。また、入り口から居室までのプライバシーのヒエラルキーがある間取り、使い勝手となっている。



文化財となっている、古い学校施設。特別に昇段させていただき、村の保存会の会長からお話を伺う事ができた。また、記念品も頂戴して歓待された。



村内のサイン類



韓国で最も韓国らしいと言われる、美と伝統が息づいた村、伝統的な空間構成を景観として保っていかなければならないと感じた。一方で世界遺産登録後、居住地域に数多くの観光客が訪れるテーマパークのような存在になっている場所である、これからの景観、施設の保存として、村のありかたを興味深く見守りたい。サインや照明類のデザインなど、昔からあるものに加えて新しくしつらえられたモノが、いささか調和がなくクオリティが低く感じられた。歴史の中で存在させるものとしてどうあるべきかなど、環境デザインとしてまだまだ思案すべきことはあるだろう。村を上から眺めると「山と水とが出会い、太極形を成している」という言葉に相応しく、時が止まったような平和で素敵な村が、今後も末永くあり続けることを願う。韓国の古き村に触れる海外キャラバンとなりました。